

「水族館飼育員の仕事」活動紹介

- 講師：〔氏名〕 鈴木 菜々里 先生、海老澤 美海 先生
〔所属〕 (株)横浜八景島 仙台うみの杜水族館
- 参加人数 78人(午前36人、午後42人)

講座担当者 内海 智

「水族館飼育員の仕事」では、仙台うみの杜水族館のパフォーマンスチームの鈴木菜々里先生、海獣ふれあいチームの海老澤美海先生を講師としてお迎えし、飼育員の仕事やイルカパフォーマンスの訓練方法などについて、スライドの映像や実演を通して楽しく教えていただきました。

1. 飼育員の仕事について

飼育員の主な仕事に3つの「じ」(調餌、給餌、掃除)があります。調餌では、個々の生きものに合わせて餌の大きさを整えます。給餌では、餌を与えながら健康チェック(食べ方、けががあったときのチェック、表情や様子の変化)をします。掃除では、潜水用タンクを背負ったり、体に重りを着けたりして、大きな水槽の中を掃除します。こどもたちは、実際のタンクを持ち上げたり、背負ったりしてその重さを体感しました。



2. スタジアムライブ(パフォーマンス)について

スタジアムライブは、生きものたちの魅力を感じてもらえるよう、生き物(イルカなど)とパフォーマー(飼育員)、ゲスト(お客様)が一体となって創り上げるパフォーマンスです。生きものと信頼関係を築きながらトレーニングしていきます。特に、イルカにジャンプを教えるためには、ターゲットという道具を使って、吻先(口先)でタッチすることを理解する初期トレーニングをしています。講座では、講師がイルカ役となって、実演を通して、ジャンプや回転ができるようになるためのトレーニング方法を教えていただきました。



3. 質疑応答から

Q. 飼育が難しい動物は?

A. 深海の生きもの。最近ではメンダコを飼育しているが、海の深いところと違い、水族館で飼育することがとても難しい。

Q. 生きものの入手方法は?

A. 販売会社や漁師さんから仕入れることもあるし、水族館同士のネットワークから入手することもある。

4. まとめ

「水族館飼育員の仕事は、体力を必要とする仕事が多いし、生きものの生死と向き合うこともあり、精神的にきつい仕事でもあります。それでも、この仕事を続けていられるのは、生きものの命を守る、育てる、責任を持つという気持ちを大切に、自分の仕事に誇りとやりがいを感じているからです。」という言葉が心に残りました。

5. 児童生徒の感想紹介

- イルカのトレーニング方法、動物の飼育、飼育員さんの仕事内容など様々なことが分かり、大変だけど嬉しいこともある仕事だと思いました。(錦ヶ丘小5年生)
- 中途半端な気持ちではなく、好きを貫き通せる力や責任感も大切なことだということを学びました。(生出中1年生)

「音楽演奏家の仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕 山本 純 先生(チェロ)、及川久美子 先生(ピアノ)
〔所属〕 フリー

■ 参加人数 25 人

講座担当者 丹治 重廣

今年は、初めてパナホールを会場に開催することができました。さらに、講師の山本先生からのご提案で、ピアニストの及川先生にご参加いただき、チェロとピアノのアンサンブルの生演奏も堪能することができました。スタッフも含めて参加者全員が、音楽とお話とで至福の時間を過ごし、学ぶことができました。

1. 「演奏家」とはどんな仕事、そして、そのために何をしたら良いのか

エルガー「愛の挨拶」の演奏から始まった講座でした。楽団に所属する形とソリストとの違い・共通点を、ご自身の仙台フィルハーモニー管弦楽団での活動のお話や、演奏上の役割・練習方法などのお話から、わかりやすく説明していただきました。「何のために演奏するのか」の問いに、「音楽の楽しさ」を本当にたくさんの人に伝えたいという思いが演奏家にはあるというお答えがあり、心に残りました。演奏家(楽団所属、ソリストそれぞれ)になるには、様々な道(音大、留学、コンクール等)があることを詳しくお話しいただきました。音楽が「仲間」をつくってくれることや、ご自身の演奏家への道のお話から、縁やチャンス大切さを伝えていただきました。



2. 「演奏」以外の音楽との関わり、そして、音楽関連の仕事に就くために

サンサーンス「白鳥」の演奏から後半がスタート!「挫折」(音大や楽団に入れなかった)や「失敗」(演奏で失敗)のお話から、演奏家以外にも、音楽と関わる仕事があることを具体的にお話ししていただきました。ゲーム音楽のクリエイターすぎやまこういち氏、楽器を作る仕事、更に新しい楽器を発明する仕事、フィギュアスケートの音楽プロデュース、映画や放送局の音楽プロデュースの仕事、日本酒と音楽と融合させる仕事など、それぞれゲームやスケートのこと等を理解し様々なジャンルの音楽と「つなげる」仕事があり、山本先生ご自身も、ポップスやジャズ、フラメンコ、演劇の方々とコラボされているとのこと。最後に、チェロに加えて途中から鍵盤ハーモニカのサプライズ演奏で、音楽の楽しさ、素晴らしさ、可能性を伝えてくださいました。



3. 質疑応答から

Q. 山本先生は、どういう方法で演奏家になったんですか?

A. 小学生でピアノ、中学・高校時代は、吹奏楽部で管楽器を担当。大学には、音楽の先生を目指して声楽で入学。大学のオーケストラの授業でチェロを始め、楽しくて一生懸命練習し、エキストラで山形交響楽団の演奏会に参加したことで縁ができてフリーのチェロ演奏家に。その後、仙台フィルに入団。

Q. 演奏しているときに大切にしていることは、何ですか?

A. 作曲家のことを勉強し、好きになった上で、真摯に向き合い「思い」をくみ取って、対話しながら演奏しようと努めている。

4. まとめ

「『音楽が好き』という気持ちをなくさないでほしい!人それぞれの前に、いろいろな道が用意してあります。自分で独自に考えればいい。チャンスが一杯あるから、そのチャンスを取り込めるように、音楽以外にもいろいろな勉強を頑張ってください。(山本先生)」 「まっすぐ歩いて行く中で、様々なつまづきなどがあるかもしれませんが、何のためにこれがあったのだらうと考えて次に進んでみてください。(及川先生)」

5. 児童生徒の感想紹介

- 将来音楽の仕事に就くことができなくても、音楽は素晴らしいものだということを忘れずに音楽の良さを他の方法で広めていくことができれば良いと思いました。これからも、音楽が好きでいられると良いと思いました。
(上杉山通小 5年生)
- 音楽演奏家になるための門はせまく、難しいけど、音楽を楽しむ気持ちは、何があっても常に忘れないようにしたいです。先生が楽しそうに演奏している様子に吸い込まれてしまいました。本当にすごいです。
(人來田中 2年生)

「自衛隊の仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕 今田 潤 先生、佐藤 桂 先生、刀根 悠之介 先生、戸邊 愛美 先生
〔所属〕 自衛隊宮城地方協力本部 仙台募集案内所

■ 参加人数 26 人 講座担当者 高野 剛

自衛隊の相談窓口であり広報活動も行っている自衛隊宮城地方協力本部から、4名の自衛官の方々をお招きし、前半は自衛隊の具体的な仕事内容や自衛官を志したきっかけ、仕事への思いなどについてお話しいただきました。後半は、制服やリュックの着用、装備品を手に取りながら説明を聞くなど、様々な体験活動を通して仕事の理解を深めました。

1. 自衛隊の仕事

自衛隊には陸上自衛隊、海上自衛隊、航空自衛隊の3つの組織があり、今回の講座では陸・海・空それぞれに所属する自衛官の方々が仕事の内容について教えてくださいました。自衛隊の使命は、国の防衛や後方支援、災害派遣など、みんなの命を守ること。そのために、それぞれの役割に応じた業務や訓練に日夜取り組んでいます。例えば、海上自衛官である戸邊さんは船のエンジンを整備する仕事をしていて、もちろん仕事場はいつも艦内です。船の安全な航行を支える役割を、毎日責任感を持って担っています。



2. 様々な体験活動

最初の体験活動は、自衛隊員の号令と姿勢の体験です。「自衛隊の『気をつけ』は手がグーです。」陸上自衛官の今田さんの説明を聞き、実際にやってみるこどもたち。自衛官の方々のアドバイスで、だんだん上手にできるようになっていきます。「気をつけ」の他にも、「休め」や「敬礼」の姿勢も教わり、楽しみながら体験することができました。その後は、陸・海・空それぞれの制服や制帽の着用体験や、リュックや水筒、双眼鏡などの装備品の見学、タブレットを使ってのデモ動画の視聴など、それぞれが自由に体験活動を行い、自衛隊の仕事について関心を深めました。



3. 質疑応答から

Q. 自衛隊にはどんな人が入隊できますか。

A. 学校の勉強をきちんと頑張っていること、健康で丈夫な体を持っていること、夢を持っていることが大切だと思います。

Q. 海上自衛官を志した理由を教えてください。

A. 外国に行って様々な経験ができると思ったからです。実際に、艦のエンジンを整備しながら海を渡って外国へも行っています。

4. まとめ

自衛隊として働く方々は、それぞれの役割を果たすことを通して日本の安全と人々の命を守っていることを学びました。また、自衛官になるまでに様々な夢や目標を持ちながら頑張ってきたことが、自衛官になるきっかけにもつながっていること、そして自衛官となった今も新たな夢や目標を持って生きていることを知り、自衛隊の具体的な仕事内容はもちろんのこと、仕事に誇りを持って働く大人の姿をこどもたちは目の当たりにしたようでした。

5. 児童生徒の感想紹介

○ 自衛隊についてのことを詳しく学ぶことができた。さらに、将来どのようなことをして何をしたいか、自分には何が向いているかが分かった。 (愛子小 5年生)

○ 自衛隊についてあまりよく知らなかったのですが、今回の講座のおかげで自衛隊について興味がわきました。日本のことを守っているのは知っていましたが、外国のことにも支援をしていることに驚きました。 (東華中 2年生)

「プロスポーツ選手の仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕 美濃山 正章 先生
〔所属〕 一般社団法人89ERS アカデミー

■ 参加人数 35 人

講座担当者 高平 吉康

仙台89ERSアカデミースクール統括マネージャーの美濃山先生をお迎えし、プロスポーツに関わる仕事について学びました。バスケットボールコーチとしての仕事内容をご説明いただき、美濃山先生からは「夢」を持つことの大切さについてお話いただきました。

1. Bリーグについて・アカデミースクールの仕事

バスケットボールのプロリーグである「Bリーグ」の紹介から始まりました。日本国内では2つのリーグが存在していた過去があり、現在では1つになった歴史や、プロバスケットボール選手になれる確率が日本の競技人口の0.0018%であることなど、現実的な話がありました。また、アカデミースクールでの仕事のスケジュールの紹介や、コーチとして働くうえで大切なことは、バスケットボールの楽しさを子どもたちへ伝えることなどをお話いただきました。



2. 夢を叶えるため（グループワーク）

将来の夢を叶えるために、いま何ができるのかというグループワークをしました。4～5人グループに分かれて、ワークシートの真ん中に夢を書き、その夢を叶えるために具体的に何が必要なのかを考えました。発表では、バランスの良い食事を摂ることや、強豪チームに入ること、海外に挑戦することなど、夢に挑戦するために今できることを考えました。



3. 質疑応答から

Q. 小学生の頃に、今の職業を希望していましたか。どのくらいで意識し始めましたか。

A. 小学生の頃は今の仕事は希望していなかった。最初の仕事は子どもが好きなので保育士になった。それから、ご縁があってアカデミースクールのコーチになった。

4. まとめ

美濃山先生の熱意あるお話に、参加した子どもたちは大きくうなずきながら真剣に聞いていました。プロスポーツ選手の近くで働いているからこそ見える、選手の困難や苦労を聞くことができました。だからこそ、今から多くのことにチャレンジして、自分の大きな夢をつかんでほしいと熱くお話いただきました。

5. 児童生徒の感想紹介

○ いつも夢を持ちながら、優しい心を持って、その夢に向かってつき進むことが大切なことだと分かりました。 (上杉山通小5年生)

○ コーチの活動は練習だけでなく、メニューなどの作成も必要なため、夜遅くまでかかること。プロの舞台で活躍するには人間性も大事だとわかった。 (宮城野中2年生)

「ファッションデザイナーの仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕 飯岡 智 先生、久道 優子 先生

〔所属〕 宮城文化服装専門学校

■ 参加人数 25 人

講座担当者 庄司 千穂

ファッションについての専門知識や技術を学ぶ専門学校で教えていらっしゃるお二人の先生をお迎えして、ファッションデザイナーの仕事について学びました。講座では、デザイナーがアイデアを形にするまでのお話を聞き、色鉛筆で服をデザインする作業の体験もしました。

1. ファッションデザイナーの仕事とは？

ファッションデザイナーとは、デザイナーの中で服飾・ファッション分野のデザインを専門とする人を指します。デザイン画を描いたり、縫製をすることもあります。デザインをするだけではなく、服の完成や商品の売り上げについて、責任の一端を担っています。アパレル業界においては、ブランドの特徴を生かしながら流行や市場を分析して総合的な目線でデザインすることを求められるため、コミュニケーション能力が必要です。



2. 実際にデザイン画を描いてみよう！



後半には、先生から提示された“縞模様の生地”を課題にしてデザイン画を描く活動をしました。2色の色鉛筆で服のデザイン画に模様の描き入れと色付けをしていきます。先生にアドバイスをもらいながら一人一人が思い思いのデザインを仕上げる事ができました。先生がホワイトボードにお手本のデザイン画をさっと描き上げる姿に、皆の目がくぎ付けでした。

3. 質疑応答から

Q. ファッションデザイナーには、絵が上手でないと行けないのですか。

A. 必ずしも絵が上手かどうかは関係ありません。ただ、絵を描くことが好きであることは、デザイナーにとって必要な要素になるでしょう。

Q. ファッションデザイナーの資格はありますか。

A. 資格はいりません。デザインを考えて、作り、提案して、評価を受け続けるのがデザイナーの仕事と言えます。

4. まとめ

デザインのアイデアは、服の知識だけではなく、世界の歴史や音楽、流行などの中にヒントがあり、様々なことに興味を持つことが大切と教わりました。物ごとを“見る力”を育てることが大切で、人は物ごとを見ようと意識しないとよく見えてはいないもの、学校での勉強も自分の見方を広げることに繋がっている、と大切なメッセージをいただきました。

5. 児童生徒の感想紹介

○ どのようにデザインしたらいいか迷って難しかったけれど楽しかったので、自主勉強で詳しく調べたいです。 (福室小6年生)

○ 絵を描くのが好きだから、お仕事の話を聞いて良かったし、アドバイスをもらえてうれしかったです。 (茂庭台中2年生)

「新幹線の仕事」活動紹介

- 講師：〔氏名〕 東日本旅客鉄道株式会社の皆様(34名)
〔所属〕 東日本旅客鉄道株式会社
仙台新幹線運輸区・盛岡新幹線運輸区・東北新幹線電力技術センター

■ 参加人数 89人 (午前47人、午後42人) 講座担当者 河野 貴之

日本国内の重要な交通手段であり、世界に誇る技術がたくさん詰まっている新幹線。その新幹線を実際に運転したり、運行を支える業務を行ったりしている職員の方々に、それぞれの仕事の内容や仕事への思い、子どもたちの将来の夢に向けての応援メッセージなどを熱く語っていただきました。

1. 新幹線の仕事を学ぼう・体験しよう

3つのグループに分かれ、各ブースを回って学習・体験しました。

(1) 運転士の仕事

実際に運転士が新幹線を運転している映像を見ながら、時間通りに到着するよう速度調整をしていることや、悪天候では信号機を頼りに運転すること、正確に停車するための目視確認の方法など、一つ一つ丁寧に説明していただきました。

(2) 車掌の仕事

車掌の仕事は、ドアの開閉やホームの安全確認、車内巡回、車内放送、乗客への対応など、多岐にわたります。常に指差し確認をしながら、お客様が安心・安全に新幹線を利用できるよう細心の注意を払っていると教えていただきました。

(3) POS(車内補充発行機)体験

POS(車内補充発行機)を使って、切符を発券する体験を行いました。自分で好きな駅を決めて、発券する操作を体験することができました。

(4) 電力技術センターの仕事

新幹線の安全かつ安定した運行を支えるために電力設備の維持管理等を行う電力技術センター。その役割として、電力を届ける仕組みや、夜間に線路の点検・検査の様子などを、映像を見せながら分かりやすく教えていただきました。また、マイクロメーターを使って線の太さを検査する体験もしました。



2. 質疑応答から

Q. 新幹線の扉の開閉機構はどのような仕組みになっているのですか。

A. 空気力で扉を開閉しています。扉を閉めた後は、空気力で車体に押し付けて、開かないような仕組みになっています。

Q. 新幹線の仕事にやりがいを感じるのは、どんなときですか？

A. 以前、新幹線が止まってしまったときがありました。頑張って復旧作業を進め、運行を再開できたとき、やり切った達成感と、お客様からの感謝の言葉がとても嬉しかったです。

3. まとめ

「働くことは社会・世界をつくっている」「たくさんの人たちが、働くことで人の役に立ち、それが輪になって世界をつくっている」「今からできることは、お父さん、お母さん、大好きな人たちに喜んでもらうこと」など、熱く語っていただきました。また、夢を叶えるために、「今やることをしっかりやる」「興味を持って、まずやってみる」「たくさんの人と話す・関わる」「あきらめない・人の夢を否定しない」といった励ましのメッセージをいただき、新幹線の仕事に限らず、人生を切り拓いていくために大切なことをたくさん学ぶことができた講座でした。

4. 児童生徒の感想紹介

○ 新幹線について知らなかったことを教えていただきました。特に面白かったのは切符の発券です。作るのが楽しかったです。ずっと聞けなかったことも聞けて、心もすっきりしました。裏ではたくさんの方が働いて安全を守ってくれていることが分かりました。すごかったと思いました。(新田小 5年生)

○ 新幹線の仕事といえば、運転士や車掌など乗務員が浮かぶけれど、それ以外にも目に見えないところで仕事をしている人もたくさんいるのだと実感しました。また、「働く」ことの楽しさや大切さ、夢を持つことのすばらしさを感じました。将来、人の役に立つ仕事がしたいと思いました。(第二中 2年生)

「ゲームクリエイターの仕事A」活動紹介

- 講師：〔氏名〕 後藤 誠 先生
〔所属〕 株式会社 ゲーム・フォー・イット
- 参加人数 39 人

講座担当者 鈴木 峻

宮城県栗原市のご出身で、東京でゲームやアプリの普及開発などに関わる会社を運営されている後藤誠さんに、これまでの経緯やゲーム開発の裏側、仕事を選択するうえで大切なことについてご講話いただきました。後藤さんが実際に製作したアプリの体験や、超有名ゲームの制作秘話などがあり、とても充実した講座となりました。

1. ゲーム業界とは

長年ゲーム業界でご活躍されている後藤さんは、「ドラクエ」や「ファイナルファンタジー」といったゲームのシステム開発をされてきました。そのご経験から当時の開発現場や、1つのゲームが完成するまでに関わる職種、開発工程などについて子どもたちに詳しく教えていただきました。

子どもたちは、プロデューサー・ディレクター・プログラマーなど、多種多様な職種がゲーム開発に関わっていることに驚き、初めて知る制作現場の裏側に興味津々な様子でした。また、後藤さんが制作した計算アプリ「タシカニ」の体験では、10の倍数を作るゲームに夢中になって操作をしていました。



2. 「好き」を武器に変える

後藤さんは、受講する子どもたちと同年代の小学6年生の時にプログラミングに出会い、夢中になったそうです。しかし、当時は情報も少なく、金銭面や周囲の理解が壁となり何度も挫折しそうになりました。それでも「自分もこんなゲームを作りたい」という思いが全てを突き動かし、乗り越えられたとお話されました。子どもたちには、「好きなことの枠の外に、できることの枠が必要。その枠が重なっているところが自分の軸足となる」「できることを増やして、好きなことを自分の武器に変えていってほしい」と伝えられました。



3. 質疑応答から

Q. ゲーム制作で難しいジャンルはありますか？

A. アドベンチャー系が難しいです。ゲーム制作の他に、ストーリー設定が必要で、そのために専門のスタッフがいます。

Q. 後藤さんが憧れたクリエイターはいますか？

A. います。自分と同年で若くして活躍していた方がいました。自分もそんな風になりたいと刺激を受けました。

4. まとめ

講話の最後に、後藤さんが出会ってきたゲーム制作に関わる人たちについて、「どんなに有名なゲームを作った人たちでも、特別な能力を持った人たちばかりではありません。みんな好きなことを夢中になって続けてきた人たちです。」というお話をされました。子どもたちは、「できることを増やし、突き抜けていってください!」という後藤さんからの思いを存分に受け取り、今後の将来選択に生かそうとする様子が伝わってきました。

5. 児童生徒の感想紹介

- ゲームクリエイターの仕事内容や、関わる方々の仕事について良くわかりました。普段は聞けない開発から発売までの流れが聞けて良かったです。 (台原中 2年生)
- ゲームクリエイターの仕事は、ゲームを作るだけで簡単じゃんと思っていましたが、こんなに時間がかかるんだな、すごく大変なんだなと驚きました。 (西多賀小 5年生)

「歯科医師の仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕 西原大輔先生、平田政嗣先生、大友桜先生、高橋佳菜絵先生
〔所属〕 一般社団法人 仙台歯科医師会

■ 参加人数 16 人

講座担当者 藤井 雅美

講話・実演・体験・講話と、「知識として学ぶ内容」と「体験を通して気付きを大切にしたい内容」の構成で、あっという間の90分でした。歯科医師や歯科助手の仕事に興味を持って受講した参加者だったので、西原先生や平田先生をはじめ、歯科助手さんや学生さんの力を借りて、本格的な治療体験をすることができた有意義な時間でした。

1. 自己紹介及び歯科医師の仕事について

歯科医師の仕事は、虫歯の治療だけでなく、口腔内の健康を守る大切な役割があることを教えていただきました。西原先生は、高校卒業後、大学歯学部入学（6年）、大学院入学（4年）、大学病院勤務、その後自分の歯科医院を開業したそうです。参加者は、あまりにも長い学歴に驚いていましたが、患者さんのためによりよい治療法を求めたり、新しい治療法や考え方を学んだりすることの大切さを知り、納得した様子でした。



2. 歯の治療体験について

歯の治療体験では、削った歯にレジンを詰めて高さを調整する作業に取り組みました。想像以上に細かい作業で大変でしたが、だんだんとコツがわかってくると夢中になって、黙々と取り組んでいました。実際の治療において、歯科医師が一つ一つ丁寧に歯を見ながら作業していることを体験を通して気付くことができました。



3. 型取り、模型づくり体験について

模型を使って、実際に印象材で歯の型を取る作業にも挑戦しました。印象材は時間が経つとすぐに固まってしまうため、手早く作業する大切さを学びました。ゆっくりしていると、患者さんが苦しくなってしまふことを聞き、スピードと丁寧さのバランスが必要だと気付きました。石膏を流して型を外すと歯型ができ上がり、模型と全く同じことに感動していました。改めて歯科医師の凄さを実感した体験でした。



4. まとめ

歯科医師の仕事についてお話を聞き、働くことの意味ややりがいについて考える機会となりました。歯科医師は、人の健康を支える責任ある仕事であり、患者さんの笑顔がやりがいにつながっていることに気付いていました。また、夢や目標を持って仕事に取り組むことの大切さを教えていただき、将来の働き方について考えるきっかけになりました。

5. 児童生徒の感想紹介

- 歯に詰め物をするのが意外と難しかったです。歯の型を取る作業は、温度によって固まるスピードが異なり、夏は大変そうだなと思いました。（人來田中2年生）
- 歯に詰め物をする作業が楽しかったけど、難しかったです。歯の模型を作った時に溝まで細かくできているのがすごいなと思いました。（東長町小6年生）

「博物館の仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕 寺澤 慎吾 先生、大内 直輝 先生、永山 達郎 先生

〔所属〕 仙台市博物館

■ 参加人数 21 人

講座担当者 大久保 裕隆

仙台市博物館に勤務されている3名の先生を講師としてお迎えし、博物館で働く学芸員の仕事についてお話を聞きました。こどもたちは、たくさんの歴史資料に実際に触れることで博物館の仕事を直に感じることができました。

1. 体験①作業台をつくろう

寺澤先生から薄葉紙を使っの作業台の作り方を教えてもらいました。薄葉紙は博物館の資料を扱うための紙で、縦に破こうとすると大人の力でもなかなか破くことができないという特徴があり、作業台のみならず、展示物の梱包用紙や紐としての用途があることを知りました。実際に博物館の貴重な資料を展示したり梱包したりしている紙だということを知り、次の展示作業に向けて丁寧に作業台を作るこどもたちの姿が見られました。



2. 体験②展示作業をしてみよう

初めに、寺澤先生と大内先生から銅鐸を例にして、展示の仕方と展示物を扱う際の注意点について説明をいただきました。先生方が薄葉紙の梱包から銅鐸を注意深く取り出す様子を見て、「丁寧!」「こんなに厳重になってるんだ。」と驚きを声に出すこどもの姿が見られました。実際の作業では、グループで協力して見る人を意識した展示レイアウトを考えました。どの部分を見せたいのかを相談して配置するなど、グループ毎の工夫が見られました。



3. 質疑応答から

Q. どんなことを意識して展示を行っていますか？

A. 仙台市博物館では、実物展示を重要だと考えているため、本物の資料を傷付けないように丁寧に扱っている。見せ方としては、展示の高さやキャプションの内容を変えるなど、分かりやすい展示を心掛けています。

Q. 仕事のやりがいを感じるのはどんな時ですか？

A. 貴重な資料に関わることができるのがやりがいの1つ。展示物について質問があるということは興味を持っている証拠。質問をしてもらえるのがうれしい。

4. まとめ

仙台市博物館では本物の資料の展示を大切にしており、見る人に向けて展示物の見せ方の工夫をしていることを学びました。展示のプロから教えてもらう体験的な活動を通して、より博物館の仕事に関心を深めるこどもの姿が見られました。今回の活動はどの子にとっても働くことについて考える上で有意義な時間となりました。

5. 児童生徒の感想紹介

○ 展示をする上での注意点など、いろいろなことを学ぶことができた。展示一つ一つに対しての工夫から学芸員さんの思いが伝わってきた。(北六番丁小 5年生)

○ 博物館の仕事を体験したことから、今度博物館に行くときにはどのような考えや思いで展示しているのかを想像しながら見てみたい。(立町小 6年生)

「パン屋の仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕 遠藤 裕紀先生、鈴木 大平先生、藤原 芽依先生
〔所属〕 株式会社パンセ

■ 参加人数 24 人

講座担当者 加藤 徳明

私たちの食生活に欠かすことのできないパンについて、株式会社パンセより3名の先生方をお招きし、経営、販売、生産のそれぞれの視点から実際の仕事内容やパン作りへの思いをお話していただきました。また、子どもたちが実際にパンの作り方の一部を体験しました。

1. パン作りは笑顔作り

パンセは、県内12店舗で生産、販売しています。それぞれの店舗では、スタッフの皆さんが話し合い、アイデアを出し合って新商品の開発や宣伝方法（ポップ作成）等を決定しています。一番大切にしている「お客様が笑顔になるため」の工夫について、いろいろな視点からお話を聞くことができました。



2. おいしいパンの秘密はグルテン

小麦粉と水を混ぜて、野球ボールぐらいのパンの原型を作りました。初めは、なかなか丸く固まらず悪戦苦闘していました。次に、固まったものを水の中で捏ね続けるとゆで卵の黄身のような粒（グルテン）が現れました。これがおいしいパンを作るための秘密だとわかり、みなびっくりでした。



3. 質疑応答から

Q. どうしてパン屋さんになったのですか。

A. もともとパン屋になりたかったからです。パンセのパンを食べたらとても美味しかったのでパン作りを始めました。初めはうまく作ることができませんでしたが、長くやってきて美味しいパンを自分も作ることができるようになり、お客さんに喜んでもらえた時に、パン作りをやってきて良かったと感じます。

Q. パン屋になるにはどのような勉強をしたらいいですか。

A. 小中学生の時は、パンのことを勉強しなくても良いと思います。むしろ素直に勉強する気持ちが大切です。それは、お客さんが喜ぶことが素直にうれしいと思えることにつながるからです。

4. まとめ

一番のやりがいは「お客様の笑顔」「人が喜ぶことをパン作りを通してやっています。」と教えていただきました。お話を通して、パン屋さんの仕事の魅力と人を笑顔にする力を感じました。

5. 児童生徒の感想紹介

○ パンを作ったり、販売したりするのは大変だけれど、買ってくれた人の喜ぶ姿を見て、頑張ろうと思えると気付きました。将来たくさんの人を笑顔にできる仕事に就きたいです。 （大和小 6年生）

○ パン屋さんが朝早くからパンを作っていることは知っていましたが、店頭で並べる時の工夫や、パンを美味しく作る方法など、いろいろな努力と工夫によって私たちの食べているパンへつながっていることを実感しました。将来、努力や工夫をしてよりよいものを消費者に届けられるようになりたいです。

（第二中 2年生）

「弁護士の仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕 桑原 和也 先生、加藤 千博 先生
〔所属〕 弁護士法人 A.I. ステップ

■ 参加人数 32 人

講座担当者 藤澤 茂和

弁護士の桑原先生、司法修習生の加藤先生をお迎えして、「弁護士への道」「弁護士の仕事について」というテーマで講話をしていただきました。ドラマなどで描かれるイメージが先行する弁護士という仕事ですが、経験談や実演を交え、具体的かつ分かりやすくお話をしていただきました。

1. 弁護士への道

弁護士になるには次のステップを踏む必要があります。

まずは、法科大学院を卒業するか予備試験に合格することで司法試験の受験資格を得ること。次に、司法試験に合格すること。試験時間は4日間と長丁場。その大半は記述形式のため、体力と文章力（作文）は必須です。司法試験合格後は、司法修習生として研修を受けます。この期間に「裁判官」「検察官」を含めて自分に合う進路を選択します。司法修習の最後には、「二回試験」があり、この試験に合格しなければ晴れて弁護士等にはなれないという厳しいものでした。



2. 弁護士の仕事 ～ある弁護士の1日～

弁護士の1日を再現していただきました。法律相談、証人尋問、委員会活動、示談交渉、裁判、書面作成と弁護士の仕事は多岐にわたっていました。各場面に、弁護士役、相談役、証人役などが設定されており、こどもたちは実際の場面に近い状況で問題を捉えることができました。裁判の場面では、こどもたちが裁判官と弁護士役を務めました。また、弁護士会には、サッカー部、野球部などの部活動があり、休日は部活動に参加して心身のリフレッシュを図る弁護士もいるとのことでした。



3. 質疑応答から

Q. なぜ、弁護士を目指したのですか。

A. 大学3年生の頃まで、政治について専門的に学んでいました。

政治を学ぶうちに、国会が法律をつくる機関であることを再認識し、法律について詳しく学びたいと思い立ちました。それから、法科大学院に進んで法律について専門的に学び、弁護士の道を選びました。



4. まとめ

弁護士になるには、厳しい道のりがあることが分かりました。今からできることとして「普段やっていることを頑張っしてほしい。授業や部活動、委員会活動など、みなさんが普段取り組んでいることが必ず生きてくる。」という力強いアドバイスをいただきました。また、いろいろな人や職業に関わってほしいとのことでした。「弁護士は、とにかくたくさんの人（職業）の話を聞きます。視野が広がらないと仕事はかどりません。たくさんの人（職業）に触れた後で将来『弁護士』を選んでくれたらうれしいです。」と述べていました。

5. 児童生徒の感想紹介

- 弁護士バッジに触れたり、裁判でのセリフを言ったりして楽しかったです。来年もまた受けたいです。そして、弁護士への興味・知識を深めたいです。 (大野田小 6年生)
- 弁護士の仕事は想像していたよりも多く、やりがいを感じました。今は視野を広げて、いろいろなことを知っていけば、弁護士になりたいという夢の一步になることが分かりました。 (八木山中 1年生)